



Page 1 of 7

2009年2月12日、東京

(2009年2月10日、スイス・バーゼル発表)

News Release: 2008年度業績発表

チバ、コスト基盤の大幅な削減にもかかわらず、 需要の落ち込みが収益性に影響

- 売上および収益性が第4四半期の需要崩落により影響
- 販売価格が下半期に大幅に上昇し、2008年の原材料コスト増の大部分を相殺
- 2009年完了に向けて順調に進行中のオペレーショナル・アジェンダが、コスト基盤を大幅に節減
- BASFによる買収は、2009年第1四半期に完了の見通し

財務ハイライト (1株当たりデータを除き、単位は100万スイスフラン)

通年比較

	リストラクチャリング、一時的な税金関連項目計上前				リストラクチャリング、一時的な税金関連項目計上後			
	2008	2007	増減率 % 現地通貨	増減率 % 現地通貨	2008	2007	増減率 % 現地通貨	増減率 % 現地通貨
12月31日に終了した1年								
売上高	5 919	6 523	-9	-3				
売上総利益	1 574	1 874	-16					
営業利益 (損失) (EBIT)	308	552	-44		(427)	434		
営業利益 (EBIT) マージン	5.2%	8.5%						
継続事業による利益(損失)	123	311	-60		(565)	220		
当期純利益 (損失)					(564)	237		
1株当たり純利益 (損失)					(8)	4		

ブレンダン・カミンズ最高経営責任者 (CEO) のコメント:

「2008年に私たちは、いくつかの重大な課題に直面しました。原材料コストが年前半に前例のないレベルまで上昇した後、景気の下降が確実となり、年末に向けて急激に下落しました。私たちは、これらのファクターの影響を最小限に抑えるため、迅速に行動してきました。生産能力および在庫レベルを減らし、資本支出を抑え、コストを最小限に維持しました。このような困難な事業環境にもかかわらず、オペレーショナル・アジェンダと呼ばれる合理化プログラムを進め、組織全体でのコスト削減が可能となりました。さらに、販売価格を大幅に引き上げ、前半に経験した原材料コスト高による影響を緩和することができました。」

2008年度(1-12月期)業績概要

売上は、現地通貨ベースでは、2007年のレベルを維持していましたが、第4四半期の末期に、多くの顧客産業で需要が急激に落ち込み、特に自動車や建設業界向けのプラスチックおよびコーティングの分野で、景気後退の大きな影響を受けました。全体として、売上は、2007年と比較して、現地通貨ベースで3%減、スイスフランベースで9%減となりました。スイスフランに対し、USドルが引き続き弱含みで推移、英ポンドが年末にかけて大幅に価値が下落したことが主な要因です。

ヨーロッパでは、売上が、現地通貨ベースで2007年と比べて8%減少しましたが、南北アメリカは、製紙・水処理剤の業績が特に好調だったため、2007年を2%下回るに留まりました。アジアでは、成長が年末に向けてスローダウンしたにもかかわらず、売上は現地通貨ベースで2007年と比べ、4%増加しました。

このような需要の大幅な落ち込みを受けて、生産量を調整するために、いくつかの生産拠点で生産能力を削減しました。保守点検のための一時操業停止や勤務時間の短縮がすでに実施され、一時的な工場閉鎖を含め、更に必要な措置について、状況を詳しく見ながら検討しています。

販売価格は、2008年前半の大幅な原材料コストの高騰後、後半で8%引き上げ、2007年と比較して3%上昇しました。しかしながら、これらの販売価格の引き上げは、2008年を通じた原材料コストの上昇幅13%を完全に補うことはできませんでした。販売数量は、年末にかけての需要の崩壊の影響を受け、2007年と比べて6%減少しました。原材料コストは、直近の2ヶ月で緩和し始め、今後更に下降すると見えています。

粗利益率は、26.6%（2007年は28.7%）と、上半期に起こった劇的な原材料コストの高騰によって、前年を下回りました。

収益性は、2007年を下回り、3億800万スイスフラン（2007年は5億5,200万スイスフラン）、リストラクチャリング費用計上前の営業利益率（EBITマージン）は、5.2%（2007年は8.5%）でした。これは、主に前半の原材料コストの劇的な上昇を反映したもので、事業のコスト基盤削減のための施策を、大幅に弱体化しました。

オペレーショナル・アジェンダ（合理化プログラム）は、プロセスの簡素化、コスト基盤の削減、成長の促進を目的としたもので、2008年に、当初の予定の1億スイスフランを上回る、1億4,500万スイスフランの削減を達成しました。これによりコスト基盤の削減が実現し、販売費および一般管理費が2007年に比べて、3%減少しました。

2006年にプログラムが始まって以来、これまでに1,900を超えるポジションが削減され、2009年のプログラム完了時には、結果として総計2,500のポジション削減となる予定です。このプログラム関連のリストラクチャリング費は、通年で1億600万スイスフランとなりました。

営業権の減損分として、製紙・水処理剤セグメントで第2四半期に5億9,000万スイスフランを計上しました。年前半の事業環境が大幅に悪化したことにより、利息の上昇と株式リスクプレミアムにつながり、割引率が増加しました。さらに、当セグメントが当初予測していた収益レベルに到達しないであろうという認識に至り、製紙薬品ビジネスの収益レベルを向上

するため、戦略的オプションを検討していました。しかしながら、2008年9月に当社取締役会がBASFによる買収提案を受けた時点で、このオプション検討のプランを中止しました。

減損、オペレーショナル・アジェンダのためのリストラクチャリング費、およびその他費用計上の結果、2008年は純損失5億6,400万スイスフラン（2007年は純利益2億3,700万スイスフラン）を計上しました。

フリーキャッシュフローは、2,600万スイスフランでした。主に営業による収益性の低迷から、2008年は2007年のレベルを下回りました。負債は、1億2,500万スイスフラン増加し、20億3,800万スイスフランを計上しました。

第4四半期概況

第4四半期比較

	リストラクチャリング、一時的な税金関連項目計上前				リストラクチャリング、一時的な税金関連項目計上後		
	2008	2007	増減率 %		2008	2007	増減率 %
12月31日に終了した3ヶ月			スイスフラン	現地通貨			スイスフラン
売上高	1 282	1 577	-19	-13			
売上総利益	335	443	-24				
営業利益（損失）(EBIT)	34	129	-74		(41)	104	
営業利益 (EBIT) マージン	2.6%	8.2%					
継続事業による利益（損失）	17	71	-75		(41)	59	
当期純利益（損失）					(41)	84	
1株当たり純利益（損失）					(1)	1.26	

第4四半期の売上は、プラスチック添加剤とコーティング機能材で、11月後半から12月にかけて、主要市場の景気後退によって顧客の需要が劇的に下落したことから、苦しい展開となりました。自動車産業向けの売上は特に大きな影響を受け、建築およびディスプレイ市場での売上も同様でした。製紙・水処理剤分野への影響は少なく、アメリカとアジアでの強い成長により、ヨーロッパでの減少を相殺し、売上は現地通貨で微増しました。全体としては、第4四半期の売上は、現地通貨で13%減、スイスフランでは19%減となりました。

ヨーロッパでは、プラスチック業界とコーティング業界の需要が落ち込み、売上は現地通貨で前年同期比18%減となりました。水処理剤は成長を見せましたが、製紙用薬品ビジネスは、多くの製紙ミルが減産にあわせた操業を行なったため、低迷しました。

南北アメリカでは、コーティング機能材が米国の自動車産業の問題によって深刻な影響を受ける一方、製紙・水処理剤は大幅に拡大するという、混在した状況でした。全体としては、売上は、現地通貨では、前年同期比で10%減となりました。

アジアでは、第4四半期にさらに弱含みの基調となり、売上は前年同期比で10%減となりました。プラスチック、自動車、建築業界の低迷により、プラスチックおよびコーティングビジネスが打撃を受け、電子材料分野のディスプレイビジネスも同様でした。製紙・水処理剤は、製紙、水処理剤ともに順調に成長し、引き続き好調な四半期でした。

販売価格は第4四半期で9%の値上げを達成し、上半期での原材料費高騰の相殺に貢献しました。しかし、販売数量は、11月後半と12月の需要の崩壊により、前年同期比で22%減少しました。原材料費は2008年第3四半期から第4四半期にかけて、幾分和らぎましたが、2007年の第4四半期と比較すると、18%増の高止まりとなりました。

収益性レベルは、年末にかけての経済状況悪化による影響を受けました。リストラクチャリング費計上前の営業利益は3,400万スイスフラン（2007年は1億2,900万スイスフラン）、マージンは2.6%（2007年は8.2%）でした。

コスト節減は、オペレーショナル・アジェンダにより、5,500万スイスフランとなり、第4四半期に発生した**リストラクチャリング費**は3,600万スイスフランでした。第4四半期には、BASFとの取引の関連費用として、3900万スイスフランが計上されました。

営業収益の低迷とBASFとの取引に関連する追加費用により、チバは第4四半期に4,100万スイスフランの純損失を計上しました（2007年は純利益8400万スイスフラン）。

セグメント概況

プラスチック添加剤の2008年の売上は、現地通貨ベースで2007年を5%下回りました。年後半の景気の低迷により、ベースポリマーとポリマープロダクツが大きな打撃を受けました。生産量の削減と組織全体のコスト削減のための対策を実行中です。

潤滑油用添加剤は、一年を通して堅調な成長を見せました。特に、グローバルな添加剤パッケージ企業およびオイル企業向けの売上が好調でした。

ホーム・パーソナルケアでは、年初1週間、業界の注文パターンの変化および在庫調整の後、年末に向けて通常の成長レベルに戻りました。

営業利益は、最終の四半期における需要の落ち込みによる影響を受けましたが、上半期の予測のつかない原材料とエネルギー価格の高騰により、より大きな打撃を受けました。この打撃は、下半期にようやく実現した販売価格の引き上げによって、一部補うことができたに留まりました。一方で、オペレーショナル・アジェンダのリストラクチャリング策が、生産および管理費に大きくプラスの影響をもたらしました。

コーティング機能材の2008年の売上は、現地通貨ベースで7%減となりました。特に自動車と建築業界で顕著な第4四半期における顧客の需要の深刻な落ち込みが影響しました。この影響の大部分は、コーティングおよびプラスチックの2つのビジネスラインを中心とし、始めはヨーロッパと南北アメリカに始まり、やがてアジアにも及びました。インキ・プリンティングビジネスも、ヨーロッパとアメリカでの出版業界の需要低迷により、市場の困難な状況に直面しました。一方で、エレクトロニックマテリアルズビジネスラインは、ディスプレイ市場が弱含みとなった2008年終盤までは、順調でした。

セグメントは、全てのビジネスラインおよび地域における値上げの実施により、原材料価格の高騰分の多くを相殺することに成功しました。

営業利益は、販売数量の減少により、2007年のレベルを下回りました。一方で、この影響は、コスト削減により部分的に補いました。さらに、コスト構造の改善と短中期的な生産能力の削減のための施策を継続しています。

製紙・水処理剤は、年末にかけて需要の鈍化が始まったにもかかわらず、現地通貨ベースで2007年を1%上回りました。アジアと南北アメリカでは、水処理剤と製紙向けビジネスの両方で成長を示しましたが、ヨーロッパでは、製紙向けビジネスの売上が、製紙業界の統合の継続と多くの工場における操業休止の拡大の影響で、マイナスとなりました。

営業利益率は、前年を少し下回りました。特に第2四半期で顕著だった原材料コストの予期せぬ高騰を、値上げによって完全に相殺するには至りませんでした。2007年と2008年に実施した収益改善策が、予定通りのコスト削減を果たし、厳しいビジネス環境の影響を大きく緩和しました。

BASFによる当社買収提案についての現況

2008年9月、当社取締役会は、株主に対し、1株当たり50スイスフランで、BASFによるチバ・ホールディングの公開買付に応じるよう推奨しました。

この提案は株主に受け入れられ、11月の時点で、買付への応募あるいはBASF自身による市場での買付によって、当社の株式の95%以上が集まりました。さらに、2008年12月2日の臨時株主総会で、買収提案の確定のために必要な株主投票の制限事項が廃止されました。BASFがチバを完全にコントロールするためには、市場競争に関する規制当局の承認を待たなければなりません。2009年第1四半期に予定の取引の完了までには通過する見通しです。

見通し

ブレンダン・カミンズ最高経営責任者のコメント：

「今後数ヶ月間の経済の見通しは、大変不透明です。原材料コストは緩和され始めましたが、市場の需要が何らかの意味ある改善を示すのは、早くても2009年の遅くなると思っています。私たちのフォーカスは、生産能力を需要減に合わせてうまく調整することで、それにより私たちのビジネスの基本的な構造を完全に最適化することです。私たちは、いつしか需要が上向いたときのために、引き続きイノベーションの可能性を最大化し、顧客市場における私たちのポジションを最適化していきます。」

日本のチバ

日本法人チバ・ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中和彦）は、本社のほか、大阪営業所（大阪市淀川区）、研究開発センター（兵庫県尼崎市）を拠点とし、ビジネスを行なっています。

2008年の日本での売上は、421億円でした。

チバ(スイス証券取引コード: CIBN)は、お客様の製品に付加価値の高い効果を提供しています。私たちは、革新的な製品やワンストップのエクスペートサービスを提供しながら、お客様に選ばれる企業となるよう努めています。私たちは、プラスチック、紙、自動車、建築物、ホーム・パーソナルケア製品など、幅広い製品に性能、保護、色、そして耐久性を与える、クオリティ・オブ・ライフの向上につながる効果を創造しています。世界120ヶ国以上で活動し、選ばれた市場でリーダーとなることを目標としています。全世界での2008年

の売上高は約59億スイスフラン（約5,659億円）、研究開発に2億3,200万スイスフラン（約220億円）を投入しています。

このニュースリリースは、英文によるオリジナル版を抜粋、翻訳したものです。
詳細につきましては、英文オリジナル版をご参照ください。

この件に関するお問合せ

チバ・ジャパン株式会社

コミュニケーションユニット

TEL: 03-5403-8220

FAX: 03-5403-8223

URL: www.ciba.com (グループ/英語)

www.ciba.com/japan (日本法人/日本語)

連結財務ハイライト (1株当たりデータを除き、単位は100万スイスフラン)

損益計算書 12月31日に終了した1年	リストラクチャリング、一時的な 税金関連項目計上前		リストラクチャリング、一時的な 税金関連項目計上後	
	2008	2007	2008	2007
売上高	5 919	6 523	5 919	6 523
売上総利益	1 574	1 874	1 574	1 874
リストラクチャリング、減損、その他費用			(735)	(118)
営業利益	308	552	(427)	434
財務損益	(128)	(125)	(128)	(125)
継続事業からの利益、税金および少数株主持分前	180	427	(555)	309
法人税等	(56)	(111)	(9)	(84)
少数株主持分	(1)	(5)	(1)	(5)
継続事業からの利益	123	311	(565)	220
当期純利益			(564)	237
1株当たり純利益			(8)	4

貸借対照表

12月31日現在	2008	2007
流動資産	2 832	3 340
有形固定資産	2 125	2 426
その他固定資産	1 955	3 022
資産合計	6 912	8 788
流動負債	1 998	1 972
固定負債	3 210	3 431
少数株主持分	56	80
資本	1 648	3 305
負債・資本合計	6 912	8 788
純借入金	2 038	1 913

キャッシュフロー計算書

12月31日終了年度	2008	2007
営業活動からのキャッシュフロー	226	494
投資活動からのキャッシュフロー	(328)	(304)
財務活動からのキャッシュフロー	(116)	(563)
現金及び現金等価物への為替変動	(37)	11
現金及び現金等価物の減少	(255)	(362)
フリーキャッシュフロー	26	300
リストラクチャリング関連支出を含むキャッシュフロー*	(71)	226

* 2007年および2008年におけるリストラクチャリング関連資産売却からの収益の純額

リストラクチャリングおよび一時的な税金関連項目

	12月31日終了年度		12月31日に終了した3ヶ月	
	2008	2007	2008	2007
リストラクチャリング、減損、その他費用 (税額控除後)	698	82	58	18
税率変更の影響	(10)	9	0	(6)
合計	688	91	58	12
1株あたり利益への影響	10.28	1.35	0.87	0.16

ビジネスセグメント別データ (%を除き、単位は100万スイスフラン)

12月31日に終了した1年	2008	2007	増減率 %	
			スイスフラン	現地通貨
売上高				
プラスチック添加剤	1930	2161	-11	-5
コーティング機能材	1604	1837	-13	-7
製紙・水処理剤	2385	2525	-6	1
Total	5919	6523	-9	-3
営業利益 (EBIT)				
プラスチック添加剤	154	323	-52	
コーティング機能材	158	219	-28	
製紙・水処理剤	96	116	-18	
コーポレートおよび他経費	(100)	(106)		
Total	308	552	-44	
営業利益 (EBIT) マージン				
プラスチック添加剤	8.0%	14.9%		
コーティング機能材	9.8%	11.9%		
製紙・水処理剤	4.0%	4.6%		
Total	5.2%	8.5%		